

障害者グループホームと特別養護老人ホームの合築により、多様な住民が暮らせる住環境が改善

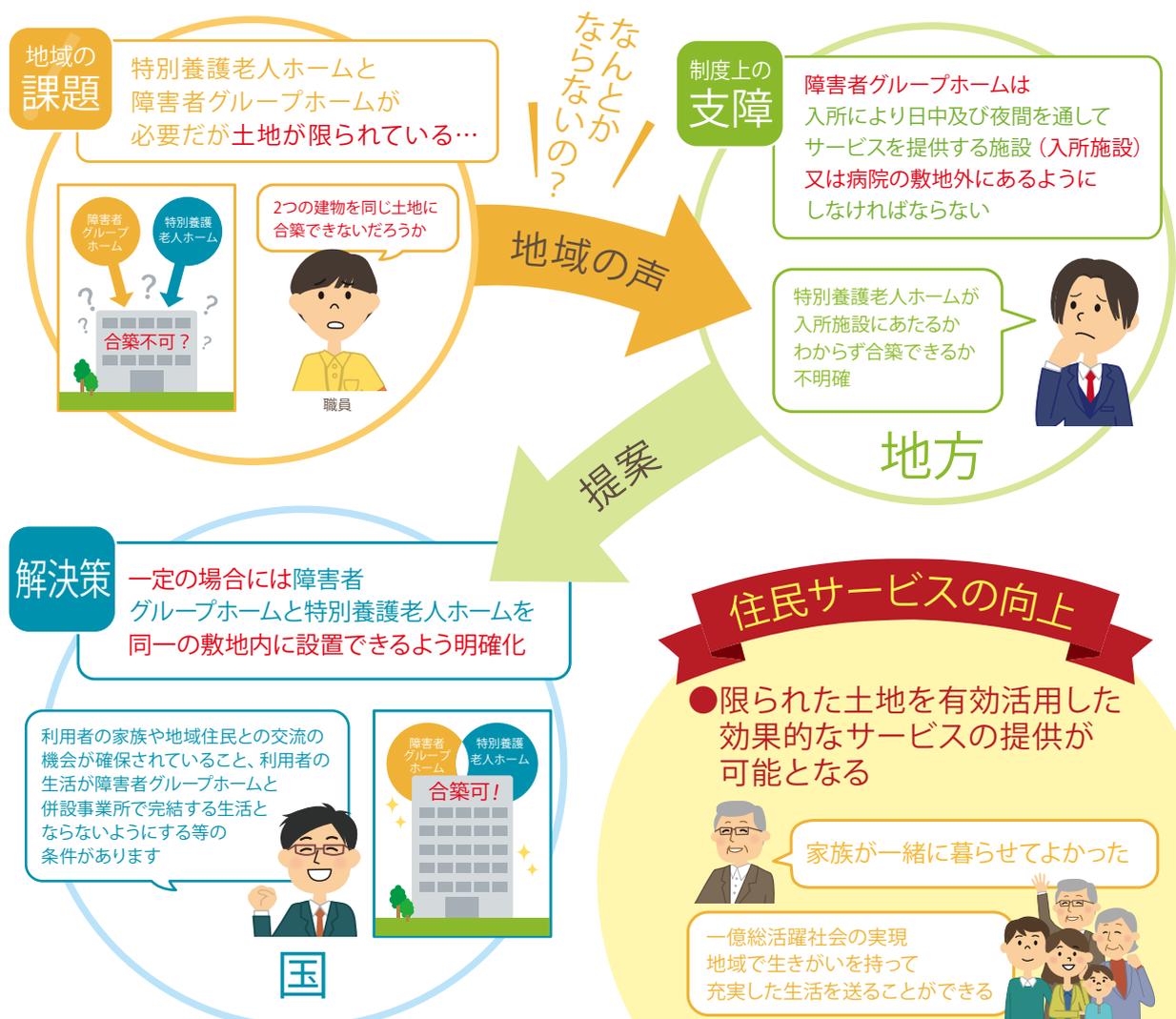
～障害者グループホームと特別養護老人ホームを同一敷地内に整備する場合の基準の明確化～

詳しくは
提案募集方式データベース
「28年」
管理番号「269」
で検索!
QRコードからもアクセスできます



ポイント

障害者グループホームと特別養護老人ホームとを同一敷地内に設置可能であることが明確化されたことにより、障害者の高齢化による要介護状態への進行などを見据えた別け隔てのない生活の場の提供が可能に（通知）



障害者グループホームと特別養護老人ホームを区有地の同一敷地内に整備



取組の概要 「同一敷地内に整備し、限られた土地を有効活用」

- 江戸川区は高齢者の増加率が高く、区内に19の特別養護老人ホームがあるものの、待機者数は700名を超える状況となっている。また、障害者グループホームも64事業所あるが、満床状態で区外のグループホームを利用している者も多数に及んでいることから、区内の限られた土地に、両方の建物を効率的に整備することが課題となっていた。(平成29年10月末日現在)

※平成18年～平成29年の10年間における東京都全体の高齢者の増加率は4.13%であるのに対し、江戸川区は5.16%。

- このため、提案募集方式の活用を検討した結果、特別区長会としての提案となった。この提案の実現により、交通利便性が良く、近くに江戸川を臨み、住環境が良好な区有地に障害者グループホームと特別養護老人ホーム等を同一敷地内に一体的に整備する計画が進行している。

取組の成果 「共生社会の実現が可能に」

- 障害者や要介護者が入居できる建物を合築により整備することにより、年齢や障害の有無などに制約を受けることなく、家族と一緒に暮らすことができるなど、それぞれの個性が発揮される共生社会の実現を後押しすることが期待される。このことは、江戸川区が目指す、少子・高齢化社会に対応した日本の未来像の一つでもある。
- 合築による建物の整備は、限られた土地の有効活用と建設コストの低減などにより、通常よりも安い利用料金で入居が可能になることも期待される。

障害者グループホームと特別養護老人ホームなどの合築のイメージ



出典:社会福祉法人章佑会

障害者の将来的な高齢化や障害の
重度化などにも、最低限の環境変化で
生活が守られることが嬉しい

関係者の声
江戸川区民の方



障害者グループホームの入居者が高齢・重度化により生活が困難になった時など、同一敷地内に特別養護老人ホームがあれば、これまでの仲間と離れることなく必要最小限の環境変化で円滑に移行できるなど、何よりも住民にとっては有り難い。完成が待ち遠しい。

T O P I C S ≡

誰もが支え合える 生活の場の 提供を目指して

～江戸川区の本整備に掛ける想い～



江戸川区 福祉部長 齊藤 猛 氏

江戸川区が掲げる「高齢者・子ども・障害者など、誰もが住み慣れた地域で支え合いながら自分らしい暮らしを続けられる場所の提供」という実現に向け、住環境として最適な区有地に障害者グループホームと特別養護老人ホーム等を一体的に整備する計画を進めることとしていました。しかし、これが国の基準に抵触するのではないかという疑義が生じた時、職員の中から内閣府地方分権改革推進室が進める提案募集方式を活用してはどうかという意見があがりました。早速、内閣府に相談し、一緒に論点整理をしていただいた結果、私共が構想する建物が整備できることが明確化されました。

分権改革により、限られた土地の有効活用が図られ、増々進展する高齢化社会への対応や、障害者を含めた誰もが住み慣れた場所で暮らせる選択肢が広がった成果をしっかりと住民の皆様へ還元をし、引き続き実現に向けて努力していきたいと思えます。